

October 11, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議の進展期待で 108.02 円まで続伸

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は107.98円と前営業日NY終値(107.48円)と比べて50銭程度のドル高水準。米中閣僚級貿易協議で交渉が進展するとの期待から円売り・ドル買いが先行した。トランプ米大統領が「11日に中国副首相とホワイトハウスで会う」とツイートすると、「米中が何らかの合意に至るのではないか」との観測が広がり円売り・ドル買いが活発化した。トランプ米大統領が「閣僚級の米中通商協議はうまく進んでいる。明日も協議が継続する」と述べると108.02円まで上昇した。もっとも、ドル円は一時107.76円付近まで伸び悩む場面もあった。アジア時間早朝には「劉鶴副首相が率いる中国代表団は閣僚級協議を1日で切り上げ、10日にワシントン発つことを計画」との報道が伝わった一方、ホワイトハウスは「中国との協議は予定通り11日まで続く」としてこの報道を否定。米中協議を巡る情報が錯綜し市場は神経質になっていた。

ユーロ円は続伸。終値は118.83円と前営業日NY終値(117.93円)と比べて90銭程度のユーロ高水準。米中貿易協議への期待からダウ平均が一時250ドル超上昇、日経平均先物が220円上げると、投資家のリスク回避姿勢が後退し円売り・ユーロ買いが優勢となり118.94円まで上昇した。

ユーロドルは続伸したものの、NY市場ではじり安の展開だった。終値は1.1005ドルと前営業日NY終値(1.0971ドル)と比べて0.0034ドル程度のユーロ高水準。米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが出たほか、ユーロポンドの下落につれた売りが出て1.1002ドル付近まで下押しした。

ポンドドルは急伸。ジョンソン英首相はEU離脱問題を巡ってアイルランドのバラッカー首相と会談し、「合意への道筋を想定することができる」という前向きな共同声明を公表。来週のEU首脳会議での合意実現へ期待が高まり、ポンドは上昇。バラッカー首相が「10月末の離脱期限までに英・EUが合意に至ることは可能」と述べたことで1.2469ドルまで上昇、ポンド円も134.56円まで上昇した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、第13回米中通商協議関連のヘッドラインに要警戒

本日の東京市場のドル円は、昨日から本日にかけてワシントンで開催されている第13回米中通商協議に関連するヘッドラインに警戒する展開が予想される。

本日も昨日同様に、トランプ米大統領や協議参加者からの発言に要警戒となるが、トランプ米大統領が「11日に中国副首相とホワイトハウスで会う。閣僚級の米中通商協議はうまく進んでいる。明日も協議が継続する」と述べたことで進展期待が高まっている。日米通商協議では、米国の自動車や日本のコメに関する課題を「第2段階」へ先延ばしして、「第1段階」として農産物で合意に到達した。米中通商協議でも、中国の構造改革、知的財産権侵害、技術移転などの「包括的合意」は「第2段階」へ先延ばしされ、農産物や「米中通貨協定」などの「部分合意」で「第1段階」とされる可能性が高まりつつある。もし、米中通商協議で「部分合意」到達となれば、15日に予定されている米政権の対中制裁関税率の引き上げ(25%⇒30%)や12月に予定されている対中制裁関税第4弾も先送りされる可能性が高まることになる。

第13回米中通商協議に関するポジティブな報道・発言は以下の通り。

- ・トランプ米大統領発言「中国との貿易協定の合意の可能性ある」
 - ・クドロー米国家経済会議(NEC)委員長発言「米中通商協議は進展する可能性」
 - ・中国側は工程表を準備する用意があり、「部分合意」に前向き
 - ・中国側は米国産農産物の輸入を拡大再開する
 - ・トランプ米政権が、一部米企業に華為技術(ファーウェイ)への供給を承認
 - ・トランプ米政権が、部分合意として米中通貨協定(currency pact)を検討
- ネガティブな報道・発言は以下の通り。
- ・ナバロ米大統領補佐官(通商担当)発言「中国と重要な合意を得るか、合意なしかどうか」
 - ・トランプ米大統領発言「部分合意、悪い合意は望まない」
 - ・香港問題：米上下両院外交委員会が「香港人権・民主主義法案」を可決、大統領が人道的解決策を要望
 - ・ウイグル問題：米政権は弾圧が終わるまで中国当局者への査証発給を制限
 - ・中国側は米国との通商合意に向けて協議の範囲を狭める模様
 - ・米政府が中国企業28社を禁輸リスト「エンティティ・リスト」に追加
 - ・中国政府がブラックリスト掲載への報復措置を警告

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 9月マネーストック M2 (予想: 前年比 2.4%)

<海外>

○15:00 ◎ 9月独消費者物価指数 (CPI) 改定値 (予想: 前月比 0.0%/前年比 1.2%)

○16:00 ◇ 8月トルコ経常収支 (予想: 28.5 億ドルの黒字)

○17:00 ◎ コスタ・ポルトガル中銀総裁、講演

○19:30 ◎ デギンドス欧州中央銀行 (ECB) 副総裁、講演

○21:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演

○21:00 ◎ 8月インド鉱工業生産 (予想: 前年同月比 1.8%)

○21:30 ☆ 9月カナダ雇用統計 (予想: 新規雇用者数変化 1.00 万人/失業率 5.7%)

○21:30 ◇ 9月米輸入物価指数 (予想: 前月比 0.0%)

○23:00 ◎ 10月米消費者態度指数 (ミシガン大調べ、速報値、予想: 92.0)

○12日 02:15 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、講演

○12日 04:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演

○米中閣僚級貿易協議 (ワシントン、最終日)

○13日 ポーランド総選挙

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

10日 05:14 トランプ米大統領
「(トルコのシリア侵攻)クルド人勢力が一掃されれば、トルコ経済を標的とする」

「(トルコのシリア侵攻)トルコが非人道的に行動すれば制裁上回る措置」

10日 22:55

「中国の劉鶴副首相と11日に会う」

11日 05:37

「米中協議はうまく進んでいる。協議は明日も継続」

10日 07:10 ポンペオ米 국무長官

「(NBAと中国の件について)米経済界は中国とビジネスするうえでのリスクに気付き始めている」

10日 09:18 両宮日銀副総裁

「金融システムの頑健性の更なる向上のために、国内債券市場がより一層発展する意義を物語っている」

「LIBORの公表停止はドルと交換する側の通貨も何らかの影響を受ける可能性」

10日 09:52 岸田文雄政調会長

「追加経済対策について年末の予算編成時期に検討も」

10日 11:07 ロス米商務長官

「中国の貿易慣行は悪化している」

「関税は中国に対して注意を喚起している」

「中国が世界規則に従えば世界はよくなる」

10日 12:08 麻生財務相

「自国通貨建ての日本国債は信頼が高いが、未来永劫そうかは心配する必要」

10日 14:44 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁

「最近の欧州中央銀行(ECB)理事会での見解の相違は、政策決定に影響を及ぼす可能性」

10日 16:19 格付け会社スタンダード&プアーズ(S&P)

「南アの低経済成長は南アの格付けの圧力になる」

「しかし南アの格付けを早急に変更する圧力はない」

「南アの財政赤字はおそらくGDPの4%辺りに推移すると予測、故に債務負担は引き続き上昇」

10日 18:46 カーニー英中銀(BOE)総裁

「今日の経済指標の結果は軟調な経済成長の状況を表している」

「英国の経済指標はかなり不安定だ」

「BOEはブレグジットの不測の事態に備えている」

「政府がBOEの次の総裁を選ぶには十分な時間がある」

「ブレグジットの結果次第でポンドは通常より不安定になる」

「英国の経済成長は非常に緩やか」

10日 19:32 エルドアン・トルコ大統領

「シリアに対する攻撃の非難は正直ではない」

「トルコは引き続きクルド人民防衛隊(YPG)、クルディスタン労働者党(PKK)、イスラム国との戦いを続けていく」

「サウジアラビアがトルコの襲撃を非難するならば、自分たちを鏡で見ればよい」

「エジプトは我々の軍事行動を非難することができない、自分たちは自国で民主主義の殺人者となっている」

「北東シリアの軍事行動は領土保全のため」

「シリアの軍事行動を侵略というならば、シリア難民をいつでも欧州へ送る道は開かれている」

「欧州はいつも正直ではなく、真実を言わない」

10日 20:30 欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(9月11日-12日分)

「複数のメンバーは量的緩和なしの、20bpの利下げを主張」

「QEの主張は明らかな過半数、中銀預金金利の引き下げ主張は大多数」

「ECBの見通しは英国が秩序あるEU離脱を実施することを基礎としている」

10日 21:08 カプラン米ダラス連銀総裁

「市場で取引されていた金利水準は、利下げ前の政策金利が高すぎると示唆していた」

「世界経済の成長鈍化が懸念」

「中期的にインフレが2%目標に達すると予測」

「今年の米国のGDP成長率は2.1%を予測」

11日 02:02 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

「米経済は成長しているもののリスクに直面している」

「FF金利はほぼ中立付近とみている」

「リスクが増大した場合はより支援する用意」

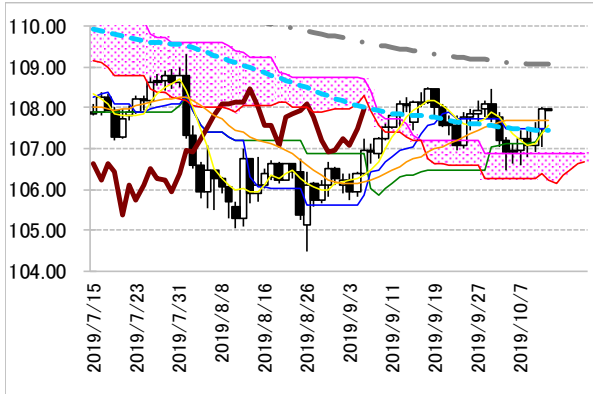
11日 06:33 メスター米クレーブランド連銀総裁

「米経済がより深刻な下降を回避すると予想」

「7、9月のFOMCでは金利据え置きが望ましかった」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

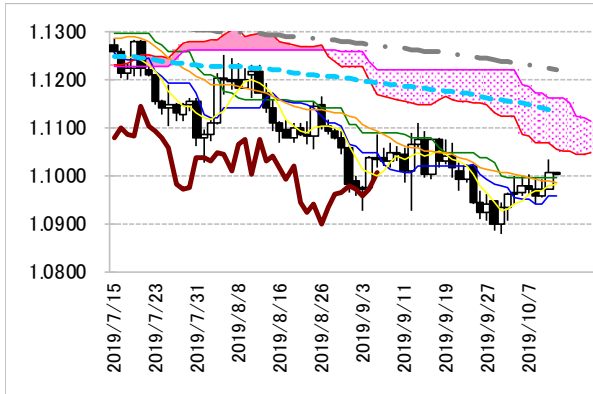


<ドル円＝転換線・基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。ダブル・トップ（108.48円・108.47円）で反落したものの、雲が支持帯となり、陽線新高値3手で反発基調にある。

本日は、転換線・基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	108.47(10/1 高値)
前日終値	107.98
サポート1	107.48(日足一目均衡表・転換線＝基準線)
サポート2	106.89(日足一目均衡表・雲の上限)

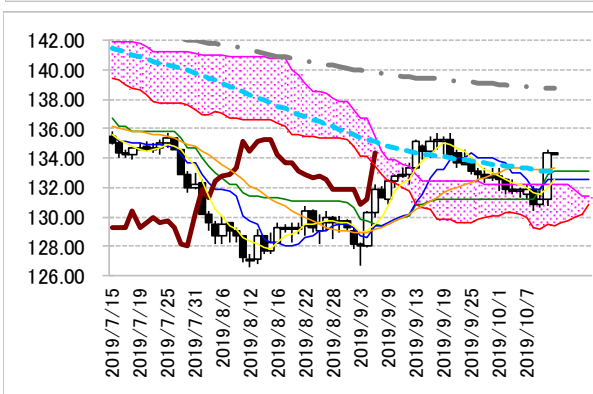


<ユーロドル＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、陽線新高値5手で反発しており、雲をうかがう展開が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1055(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1005
サポート1	1.0957(日足一目均衡表・転換線)

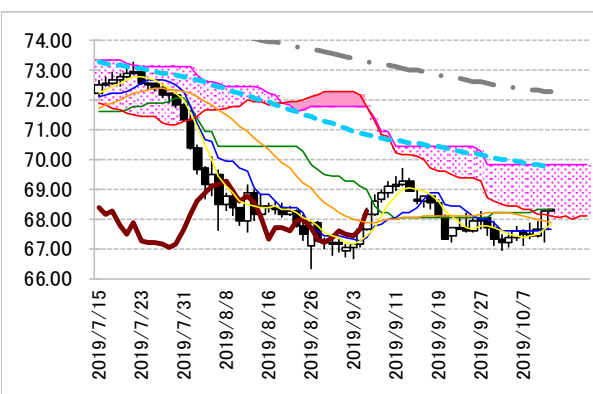


<ポンド円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

大陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。21日・90日移動平均線を抜けたことで、9月20日の高値をうかがう堅調推移が予想される。

本日は、基準線支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	135.75(9/20 高値)
前日終値	134.36
サポート1	133.09(日足一目均衡表・基準線)



<NZドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けている（中立要因）ものの、転換線を上回って引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。陽線新高値4手で反発基調にあり、陽線新高値5手を数えて上昇トレンドが確認されるか否かに要注目となる。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	69.78(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	68.24
サポート1	67.62(日足一目均衡表・転換線)

